

佐々木秀明：第2回アジア太平洋藻類学フォーラム参加記

第2回アジア太平洋藻類学フォーラム (The Second Asian Pacific Phycological Forum) が、1999年6月21日から25日にかけて、香港にある香港中文大学で行われた。香港中文大学は、香港の中心部である九龍や香港島から電車で約30分、沙田という街に位置する。キャンパスは更に郊外の山中にあり、日本では見ることができない蝶や大きなカタツムリや30cmを越えるナナフシなどが我々を暖かく迎えてくれた。人が溢れ、雑然とした香港そのもののイメージを大学に抱いてやってきた私にとって、その落差にしばし呆然としたのは言うまでもない。更に、キャンパスは山肌で作られているため、大学内の移動は非常に急な坂を行き来しなければならなかった。坂多き神戸大学とい勝負ではなかろうか。しかしながら、眺望はたいへん素晴らしく、眼下に広がる景色は語るに尽くせないものであった。キャンパス内には多くのレストランをはじめ、スーパーマーケットなどが存在し、1つの街を形成しているかのようであった。

香港の気候は大変蒸し暑く、時折、激しいスコールに見舞われた。屋外が蒸し暑いのにに対して、会場内は冷房が効きすぎていて、その気温差に調子を崩す人もおられたようである。また、香港の食と言えば当然ながら円卓を囲んでの中華料理である。毎食の食事は、味はもとより目も楽しませてくれて、素晴らしいものであった。しかしながら、日本からの参加者の中には、連日の暑さと中華料理攻めに疲れ、あっさりとした日本食を求めて沙田の街をさまよった人々もいたようである。

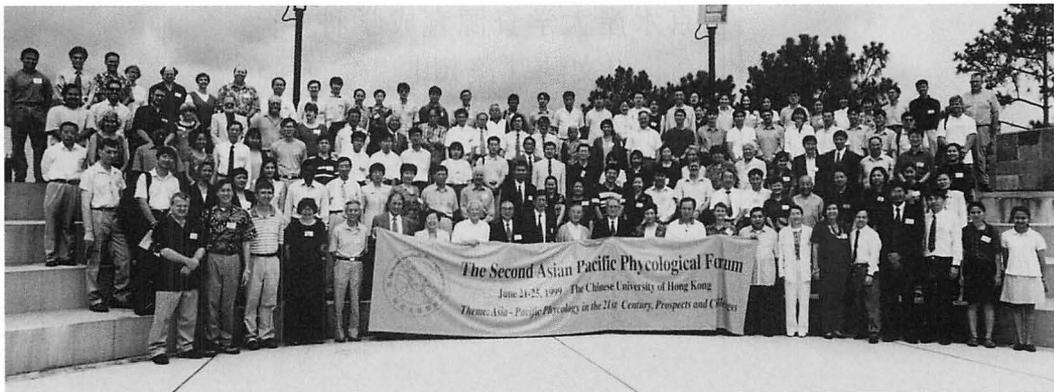
フォーラムは、アジア諸国を中心に19カ国から約

200人の参加の下、行われた。日本からは総勢27人が参加した。残念ながら、日本からの学生の参加は、韓国や中国などに比べると大変少なかった。

さて、本題の講演であるが、11のミニシンポジウムを始め、多数の口頭発表及びポスター発表などが行われた。講演は2会場において同時進行で行われた。今回、口頭発表の形式として多く見られたのが、スライドやOHPに代わって、コンピューターを用いた発表である。香港では情報教育の一環として、コンピュータープレゼンテーションを推奨していることを、香港の学生が教えてくれた。香港以外の人々もコンピュータープレゼンテーションを行っていたが、フォントの選択によっては大変見づらかったり、文字化けが生じてしまい、細心の注意が必要なようである。

講演内容は、生態や応用藻類学の分野の発表が多かったように思われる。アジア諸国の研究者が多いため、その地域性が出たのであろうか。数多くある発表の中で筆者の印象に残ったものの中に、J. West氏による高速ビデオカメラを用いた紅藻の精細胞の運動観察がある。紅藻の精細胞は不動であると言われているが、映像では水の流動ではない、明らかな細胞自身による運動が観察され、聴衆から感嘆の声が上がった。この映像は、エンディングセレモニーにおいて再び映写され、多くの聴衆を魅了した。

日本からの参加者も多く素晴らしい発表を行い、なかでもブリティッシュコロンビア大学の石田健一郎氏は、クロララクニオン藻の系統解析の研究によりポスター賞を受賞した。国際藻類学会での受賞に続いて2度目とのことである。副賞として賞金も頂いたよう



であるが、その用途は家族のためとのことであった。

講演の合間には、コーヒーブレイクがあり、和やかな雰囲気のもと、先の発表に対する質問など活発な意見交換が行われていた。筆者も、この場で発表に対する様々なご意見、ご指摘をいただき、多くのことを学ばせていただいた。

最終日前日の夜には、これぞ香港と思わせる電飾華やかな船上において、懇親会が行われた。次から次と運ばれてくる料理は豪華絢爛、見ているだけで素晴らしいものであった。懇親会中には、特別講演として中国の長老研究者（90歳以上であったと記憶している）

による中国の藻類学に関する講演も行われた。和やかな雰囲気のもと、多くの国の方々の円卓を囲んでの語らいは、私にとって素晴らしい思い出となった。

今フォーラムにおいて発表された演題は、審査の後にプロシーディングとしてHydrobiologiaという雑誌にまとめられる予定である。

最後に、今フォーラムの準備、運営に当たられ、素晴らしい機会を与えていただいた香港の方々に感謝を表したい。

(657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学自然科学研究科)

和文誌「藻類」の投稿先が変わります

2000年1月1日より、日本藻類学会和文誌「藻類」の編集委員長が、田中次郎氏（東京水産大）に交替となります。編集業務の移管をスムーズにおこなうために、

1999年11月10日以降に投稿（論文・記事）される方は、新編集委員長宛にご投稿ください。

1999年11月10日以降の投稿先

〒108-8477 東京都港区港南4-5-7

東京水産大学資源育成学科

和文誌「藻類」

編集委員長 田中次郎

TEL& FAX: 03-5463-0526

e-mail: jtanaka@tokyo-u-fish.ac.jp